

令和5年2月10日

二本松市議会議長 様

会派名 令和創生の会
代表者名 本多 俊昭



研修報告書

本会派において、下記のとおり研修会に参加したので、報告いたします。

記

1. 研修名 令和4年度 第3回「市町村議会議員特別セミナー」
2. 研修日時 令和5年1月23日（月）～1月24日（火）
1日目 13時00分～16時35分
2日目 9時00分～12時30分
3. 研修場所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）
4. 講師等 慶応義塾大学 経済学部教授 井手 英策 氏 他別紙のとおり
5. 参加者 ① 本多 俊昭..... ② 小林 均.....
③ ④



(別紙2-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 令和創生の会
氏 名 本多俊昭

○ 月 日 令和5年 1月 23日 (～24日)

○ 場 所 全国市町村国際文化研修所

○ 内 容 市町村議会議員特別セミナー

○ 視察・研修の感想

講演1, 「ベーシックサービス宣言～分かち合いが変える日本社会～」

井手英策 氏

ベーシックサービスとは、日本より税率の高い欧州の方が、経済成長を実現している。税金の使い方次第で格差を是正し、中間層を含め老後や学費の心配のない社会を作ることができる。ベーシックサービスとは、年収200万円同士のカップルが安心して子供を3人育てられる社会にしようということ。増税で家計に負担が増えるように思えるが、現状では教育や老後に備えて貯蓄。これらの費用は実際には必要がなかったとしても、備えは必要だから過剰貯蓄になり消費が抑えられる。例えば貯蓄の必要がなくなれば増税があっても消費が増やせる。貯蓄で備えるか、税で払って保障してもらうかの違いだけ。教育費だけ無償化しようとするれば子育てを終えた世代や子供がいない世帯の理解を得られないので、介護の無償化をセットにする工夫が必要。コロナ禍を境に給付と負担のバランスが一層崩れたことに危機感を示され、「政策に財源論をきちんと位置づけることが民主主義を活性化させる」との講演でした。

講演2, 「一人ひとりの個性を尊重する～あおいけあ流の介護の世界～」

加藤忠相 氏

加藤氏は、25歳の時に神奈川県藤沢市で「株式会社あおいけあ」を設立。独自のケア事業を実践し、高齢者自身の介護度が維持・改善されていることで注目を集めた。

「あおいけあ」は、認知症の方などのお年寄りが多く利用している介護施設だが、施設で働く職員にはマニュアル通りではなく、利用者が困らない環境づくりを大切にしている。介護で一番大切にしていることは高齢者の方と接する際に一人一人の性格や個人に関する部分をしっかりと把握し、尊重するように意識すること。認知症と聞くとマイナスのイメージが強いが、認知症自体は病気ではなく、記憶障害などによって起こる症状で、認知症の方の行動には必ず原因があり、利用者が何に困っているのかを見極め、自分に価値を見出してもらうまで付き合うことが本来の介護であり、利用者が、得意なことや好きなことにチャレンジしてもらい「自分の居場所だ」と思えるような空間にして行きたいとの講演でした。

講演3、「ヤングケアラー現状と必要な支援」

堀越栄子 氏

ヤングケアラーとは、障がいや病気、要介護などを抱えていてケアを要する家族がおり、介護を担わざるを得ない状況で家事や家族の世話などを行う18歳未満の子供を指す言葉です。文科省、厚労省が令和3年3月に発表した「ヤングケアラーの実態に関する調査結果」によれば、中学2年生の約17人は1人がヤングケアラーとのこと。しかし、ヤングケアラーと自覚している子供は2パーセントしかいない。幼いころから介護が日常にあたるために、無自覚のまま負担がかかっており、助けを求められない子供が多いのが現状。

※ヤングケアラーの子供が抱える4つの問題点！

○学業に影響する

○交友関係が希薄になりやすい

○睡眠不足や生活リズムが崩れるなど健康が損なわれる

○就学機会の制限がある

ヤングケアラーの支援には、福祉、教育など様々な観点からフォローが必要であり、管轄する部署が複数に渡るため、調整に苦しんでいるのが実情。また、国は、自治体に実態調査を勧めるように促していますが、およそ70パーセントが調査予定はないと回答していることなどから、貧困家庭などの問題に比べて外部から発見しにくく、そもそも支援が必要な子供の把握にも課題があるとの講演でした。

講演4、「ひきこもり本人や家族が必要とする支援と地域の役割」

池上正樹 氏

引きこもっている人やその家族を長年取材してきた池上氏は、当事者の内面について「人との交わりを避ける場所でしか生きられない、というのが実感」と話された。そして、この問題の本質は、社会的孤立や社会的排除にあるという。私は、引きこもる要因を対人関係のつまずきとっていたので、反省とともに考えさせられました。引きこもっている人が、「困った人ではなくて、困りごとを考えている人」との認識はなかなか広がらないという。引きこもる要因を考えてほしい。100万人いれば、100万パターン以上の困りごとがある。また、不登校や引きこもり、自殺などの相談に応じてきた経験から、誰にでもどこからでも起きる。8050問題は9060問題へと変化し、さらに困難になる恐れがあります。今後、どう社会として受け止めるか。各支援と地域の役割の重要性についての講演でした。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

上記の研修の感想を踏まえ、学校教育現場には近年、不登校・いじめ・暴力問題など困難な問題が山積している。大人社会に視点を移すと、近隣との関係性の希薄化など個別の課題に加え、経済的格差の拡大など財政的に非常に厳しい状況に陥り、生活不安と将来への不安が高まり、生きづらさを痛感している。このような状況の中で、コミュニティ機能の脆弱化や福祉への無関心化が進行しており、社会的孤立による自死や孤独死、児童虐待などの問題が深刻化し、大きな社会問題になっていることから、福祉と教育の連携強化、情報の共有化の充実が重要であり、また、アウトリーチができる専門職を複数配置し、さまざまな困りごとに応じて複数の条例や制度を作るのではなく、重層的支援体制を確実に実施、必要に応じて拡張していく方法が必要と考えられる。

研 修 報 告 書

会派名 令和創生の会

議員名 小林 均

○ 研 修 日 令和5年1月23日～1月24日

○ 研修場所 全国市町村国際文化研修所 (JIAM)

○ 研修内容 令和4年度第3回「市町村議会議員特別セミナー」

○ 研修の感想

研修1 「ベーシックサービス宣言～分かち合いが変える日本社会～」

慶応義塾大学 経済学部教授 井手 英策氏

日本の高齢者向けの社会保障は先進国中6番目、しかし、現役世代向けは、下から3番目。一人あたりGDPは世界4位から26位へ転落、1997年が所得のピークだった。今の日本の経済は1%すら超えることができない。新しいモデルを考えなければならない。誰かを<救済>するのではなく、高齢者、障がい者から現役世代まで全ての人たちに<保証>をするベーシックサービスの考え方をを行うことが重要。ベーシックサービスとは誰もが生存、生活のために必要とする/必要としうるベーシックなサービスであり、決められたサービスではなく、人間に不可欠なニーズを追い求める<終わりなき対話>である。

持ち家比率がどんどん減っている現在、住宅手当の創設など、中間層の<生活保障>により、働けない人たちへの寛容さを引き出し、人間を救済の屈辱から開放し、万人の尊厳を平等化するという哲学が必要。これからは、サービスの無償化を競い合うのではなく、どのような理念のもと、何を、なぜベーシックと考えるのかを、丁寧に説明する政治姿勢が重要である。

この講演で特に重要と感じたのは、講師が強調していた「何がベーシックサービスか、どの税で、だれに、どのくらいの負担を求めるか=対話、すなわち民主主義を連帯の土台に据え、<共有=分かち合い>という中庸を目指す。」

つまり、どの国の政策でも財源は増税するしかないということ。

研修2 「一人一人の個性を尊重する「あおいけあ流」の介護の世界」

株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相氏

NHK「おはよう日本」「あさイチ」、フジテレビ「特ダネ！」等で紹介された(株)あおいけあの介護への取り組みを、加藤社長自らの講演を聞くことで、学ぶこ

とができた。現役世代の減少が加速し、100歳以上の高齢者が30万人以上という現状において、認知症なんて当たり前の世界である。

ケアとは何か。→気にかける→たがやすこと お年寄りに楽しんでもらうのではなく、お年寄りが（地域に）楽しんでもらうことが、介護の本当の姿である。入所者一人ひとりの個性を尊重する「あおいけあ流」の介護がひろがれば日本の未来は開けると感じた。

研修3 「ヤングケアラー支援の課題と支援のあり方」

一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事/日本女子大学名誉教授 堀越栄子氏
ヤングケアラーとは家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受けている18歳未満の子供のことをいう。

ヤングケアラー一人ひとりを支えるには、子どもの権利を守るという視点、子どもの健やかな育ちの視点が大事である。

ヤングケアラーを社会全体で支援するためには、家庭、専門職(行政)、学校・教員の連携が必要。その上で、包括的な支援策が求められる。

とりわけ、自治体が行うべき支援方針・体系の検討が必要となる。①ケアラーを支援する法律や条例を制定する。②実態調査の実施、相談窓口の設置、広報啓発、情報提供、研修・セミナー等の開催。③ヤングケアラーに気づいた人・団体・地域が取り組む。

本市としても、相談窓口の設置、研修の開催、条例の制定が必要だと思った。

研修4 「ひきこもり本人や家族が必要とする支援と地域の役割」ジャーナリスト/ 特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会広報担当理事 池上正樹氏

全国推定115万人の人がひきこもり、その背景は多種多様である。ひきこもりは病名ではない、他者との関係を遮断し、発信しないのが特徴。家の中だけが安心できる「居場所」。命を守るために退避している。自死を望んではいない。ひきこもる生き方も多様な社会の選択肢の一つ。皆と違って自分らしく生きていける選択肢を尊重できる社会を。どの年代でも何歳からでも、誰もが「ひきこもり」状態になり得る。ひきこもりの人たちが生きやすい社会は、皆が生きやすい社会である。まず、ひきこもりの実態調査から始めるべきと思った。

○市政への反映等

上記の感想を踏まえ、社会保証のベーシックサービス、認知症高齢者、ヤングケアラーと介護、そして、ひきこもりなどの課題等、市民の切実な内容であり、二本松市でも同様の取組みを行なうことは可能ではないかと感じた。

講師紹介

●慶應義塾大学 経済学部教授 井手 英策(いで えいさく)氏

1972年生まれ。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。日本銀行金融研究所、東北学院大学、横浜国立大学を経て、現在、慶應義塾大学経済学部教授。専門は財政社会学。総務省、全国知事会、日本医師会、全労済協会等の研究会座長・委員のほか、朝日新聞論壇委員、毎日新聞時論フォーラム委員なども歴任。2015年度大佛次郎論壇賞、2016年度慶應義塾賞を受賞。

主な著書に『どうせ社会は変えられないなんてだれが言った?』(小学館、2021年)、『幸福の増税論—財政はだれのために』(岩波新書、2018年)、『経済の時代の終焉』(岩波新書、2015年)ほか多数。

●株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相(かとう ただすけ)氏

東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科卒業。横浜の特別養護老人ホームに就職し3年後退職。2001年に株式会社あおいけあを設立。「グループホーム」「デイサービス」の営業をはじめ、2007年より小規模多機能型居宅介護も開始。2012年11月に「かながわ福祉サービス大賞」大賞受賞。2017年「おとなりさん」開所。テレビ、各種新聞・雑誌等で数多く特集。漫画『ほっと介護日誌』で漫画化。2017年公開映画『ケアニン～あなたでよかった』モデル事業所。NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」にて2回特集。日経ビジネス「次代を創る100人」に選出される。

主な共著書に、『あおいけあ流介護の世界』(南日本ヘルスリサーチラボ)、『ソーシャルワーカー』(ちくま新書)ほか多数。

●一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事 日本女子大学名誉教授 堀越 栄子(ほりこし えいこ)氏

日本女子大学家政学部家政経済学科卒業。1974年2月同学科助手就任。2019年より、日本女子大学名誉教授。1997年に現在代表理事を務める「認定NPO法人さいたまNPOセンター」の設立に参加。2010年に現在代表理事を務める日本ケアラー連盟の創設に関わる。全国2万世帯のケアラー実態調査や自治体へのヤングケアラー実態調査、政策提言、自治体職員や専門職、市民団体等への支援研修を担う。埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議委員も務める。

主な共著書に、『福祉環境と生活経営』(朝倉書店)、『市民生活と自治体責任』(学陽書房)、『暮らしをつくりかえる生活経営力』(朝倉書店)、『総合介護条例のつくり方』(ぎょうせい)ほか多数。

●ジャーナリスト 特定非営利活動法人KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 広報担当理事

池上 正樹(いけがみ まさき)氏

25年にわたり数千人の「ひきこもり」当事者とやりとりし、「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」を発足当初からサポート。家族の相談にも乗る。東京都町田市ひきこもり専門部会委員、江戸川区ひきこもり支援協議会委員、厚労省ひきこもり広報事業企画検討委員会委員等。2012年から10年間開催した対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵」運営者の1人。江戸川区ひきこもりオンライン居場所コーディネーター。テレビやラジオに多数出演。Nスペドラマ「こもりびと」、NHK土曜ドラマ「ひきこもり先生」等の監修も務める。

主な著書に『ルポ「8050問題」～高齢親子“ひきこもり死”の現場から』(河出書房新社)、『ルポひきこもり未満』(集英社新書)、『大人のひきこもり』(講談社現代新書)などほか多数。日本文藝家協会会員。

令和4年度「第3回市町村議会議員特別セミナー」時間割

(敬称略)

月日	曜日	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00-)
1/23	月	11:00-12:00 受付 11:00- 昼食 13:00- 開講式 日程説明		【講義】 (13:15-14:45) ベーシックサービス宣言 ~分かち合いが変える日本社会~ 慶應義塾大学経済学部 教授 井手 英策	【講義】 (15:05-16:35) 一人一人の個性を尊重する 「あおいけあ流」の介護の世界 株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相	16:45- 入寮オリエンテーション 17:30- 交流会	
		【講堂】	【講堂】	【講堂/大食堂】			
1/24	火	【講義】 (9:00-10:30) ヤングケアラー支援の課題と 支援のあり方 日本女子大学名誉教授 一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子	【講義】 (10:50-12:20) ひきこもり本人や家族が 必要とする支援と地域の役割 ジャーナリスト 特定非営利活動法人KHJ全国 ひきこもり家族会連合会広報担当理事 池上 正樹	12:20-12:30 閉講・事務連絡			
		【講堂】	【講堂】				

◎日程は、都合により変更になる場合があります。

(令和4年11月30日現在)

名札の色： 研修担当：小川、飯塚

令和創生の会研修会参加行程表

	月 日	行 程
1日	1/23(月)	【JR東北本線】 【やまびこ202号】 【のぞみ17号】/【JR湖西線】 【徒歩】 二本松駅 — 郡山駅 — 東京駅 — 京都駅 — 唐崎駅 — 全国市町村国際文化研修所 6:08 6:31/6:47 8:16/8:30 10:44/10:56 11:09 研修会13:15~16:35(別紙)
		----- 11:30~12:50昼食 17:30~交流会
2日	1/24(火)	【徒歩】 【JR湖西線】 【のぞみ26号】 【やまびこ149号】 【JR東北本線】 全国市町村国際文化研修所 — 唐崎駅 — 京都駅 — 東京駅 — 郡山駅 — 二本松駅 研修9:00~12:20(別紙) 12:51 13:05/14:24 16:36/17:00 18:17/18:44 19:06

【宿泊先】

全国市町村国際文化研修所 Tel077-578-5932 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号

【研修項目】

市町村議会議員特別セミナー(全国市町村国際文化研修所主催) 詳細は別紙